allcinema

# 舞台恐怖症（1950）

STAGE FRIGHT

**メディア** 映画
**ジャンル** サスペンス
**製作国** イギリス
**色彩** B&W
**時間** 110分
**公開情報** 劇場未公開・ビデオ発売

**【解説】**

トリュフォーは“どの人物も真に危険に曝されていないから”この映画のストーリーは興味を引かないと言った。しかし、いかにも英国の推理ものらしい謎解き遊びがこれほど楽しく、かつスリリングなのもヒッチ作品ならではのことで、死体がむやみやたらに転がらないのも臆病な人にはよい。その代わり、この映画には血の付いたドレスが重要なモチーフとして出てきて、モノクロ映画の強味でグロテスクさは感じさせないが、恐怖はしっかり盛り上げる。Ｊ・ワイマン扮する演劇学院生イヴは車を運転しながら、友人のジョナサンの告白を聞く。彼は愛人の女優シャーロット（ディートリッヒ）の殺人の後始末をしようとして女中に目撃されて逃げてきたところだという。当然のように犯人扱いされた彼をイヴは海辺の別宅に住む父に匿うよう頼む。そして、シャーロットの女中を買収し、その従妹ドリスとして女優の身辺を探るイヴだったが、偶然知り合った刑事スミスが彼女に興味を持ち付きまとうので、せっかくの一人二役もバレそうになる……。ヒッチたっての望みで出演したワイマンだったが、ディートリッヒの美しさに嫉妬して、女中ドリスの役も“美しく”演じてしまったため、正直、この一人二役に効果が出切らなかった感があるが、彼女の化けの皮の剥がれかける慈善パーティはサスペンス的笑いの好見本。父親がシャーロットを刺激しようと人形のドレスに血をつけて渡すことを考え、射的で人形を取ろうと奮闘するところが妙におかしかった。ただ、結末は非常に脆く、ヒッチ自身も初めの回想シーンに偽りのあったせいだと反省している。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | アルフレッド・ヒッチコック | Alfred Hitchcock |
| **製作** | アルフレッド・ヒッチコック | Alfred Hitchcock |
| **原作** | セルウィン・ジェプソン | Selwyn Jepson |
| **脚本** | ウィットフィールド・クック | Whitfield Cook |
| **撮影** | ウィルキー・クーパー | Wilkie Cooper |
| **音楽** | レイトン・ルーカス | Leighton Lucas |
| **出演** | マレーネ・ディートリッヒ | Marlene Dietrich |
| | ジェーン・ワイマン | Jane Wyman |
| | リチャード・トッド | Richard Todd |
| | アラステア・シム | Alastair Sim |
| | ケイ・ウォルシュ | Kay Walsh |
| | パトリシア・ヒッチコック | Patricia Hitchcock |
| | アンドレ・モレル | Andre Morell |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.